

あ と が き

本園の研究スタイルは事例研究が基本です。毎週一回の研究会にクラス担任が事例を持ち寄り、事例を読み合うことからスタートします。事例に書かれている子どもの姿や教師の援助等について疑問点を出し合ったり、その意味を考え合ったりしながら事例の読み取りを深めていきます。例えば、子どもの発した一言についてどんな意味があるか、どうしてその言葉を発したのか、教師のかかわりの意図はどこにあったのか、環境構成はどうだったか、それでよかったのか等々をかなりの時間をかけて話し合うことがしばしばです。このような研究スタイルはこれからも大事にしていきたいと考えています。

本園はここ数年、教育課程の編成及び指導計画の作成を内容とし、研究に取り組んでまいりました。教育要領を基に本園の幼児の実情から、「かかわり」「協同」をキーワードとした、どちらかというところ「集」に目を向けた研究が続きました。「かかわり」「協同」をキーワードにすると、友達と同じ目的をもって一緒に活動するという構図が浮かびがちです。おのずと研究会に出され、検討する事例もそのような活動の事例が多くなってきました。しかし、話し合いを深めていくと、最終的には友達と同じ目的をもって一緒に活動するという姿をめざすものの、そのためには、一人一人がしっかりと「自分」を確立していかなければならないという、本園がこれまでの研究で大事にしてきた「自分づくり」を育ちの中心に据えた保育の重要性に帰着するのです。

そこで、今年度は今一度「自分づくり」に焦点をしっかりと据えて、具体的な事例を追跡観察してきました。前述したように、事例に書かれていることをもとにした話し合いが毎週続けられました。その話し合いそのものの中に子どもは多くの学びを得ることができました。本紀要はこのような話し合いの一部をまとめたものです。拙い研究ではありますが、御一読いただき、忌憚のないご批判ご指導をいただければ幸いです。

最後になりましたが、これまでの研究にご指導いただいた多くの先生方に厚く御礼申し上げ、今後の研究の更なるご批判ご指導をお願い申し上げます。

平成 24 年 6 月

副園長 上田 ますみ